

四電ビジネス株式会社 様

効果的なセキュリティ対策と内部統制の確立に向けた 情報システムの整備・強化を実現

業務効率を落とさない効果的なログ活用を実践

ご担当者様



四電ビジネス株式会社
経理部 システム課
課長
川上 陽一氏



四電ビジネス株式会社
経理部 システム課
主任
小川 和輝氏

弊社担当営業



株式会社ハンモック
ネットワークソリューション事業部 営業部
企画課 課長
山岡 範章

いつもあなたとベストなパートナー

四電ビジネスは、「いつもあなたとベストなパートナーでありたいと願っています。」をスローガンに掲げ、四国地域におけるビル・不動産、環境保全、商事、生活、情報などあらゆるビジネスフィールドで事業を展開している。

その行動指針には、常にお客様の立場で考え価値あるサービスをお届けするという【顧客本位の姿勢】、能力の向上に努めプロフェッショナル集団になりあらゆる可能性に挑戦する【可能性への挑戦】、社会規範を遵守し良き企業市民として行動する【信頼の構築】があげられている。

この四電ビジネスにおいて、ハンモックのAssetView HYPERがどのような成果をあげているのか経理部 システム課長 川上氏と経理部 システム課 主任 小川氏に話を伺った。

情報漏洩対策の必要性

「個人情報保護法や会社法の施行および日本版SOX法（金融商品取引法）の成立を受け、セキュリティ対策はもちろん、内部統制の確立に向けた情報システムの整備・強化が急務になってい

ます。また当社は、四国電力の関連企業であるため、情報漏洩事件が一度でも起きると社会的信用の失墜はもちろん、ひいては四電グループ全体の信用失墜につながるおそれがあるため、早急な対策が必要でした。」と川上氏。

そもそも四電ビジネスにおけるセキュリティ対策は、これまでウイルス対策のみで、資産管理は表計算ソフトで独自の資産管理表を作成し変更の都度、手作業で更新していた。

特に当時は、WinnyなどP2Pソフトによる情報漏洩事件が世間で問題になっており、情報漏洩の防止、パソコンの稼働監視や操作履歴の管理、デバイス制御等の仕組みが早急に必要であると認識から2005年4月から導入を検討、複数製品と比較、評価を行った。

低価格・運用が容易、機能が選べる 「AssetView HYPER」

「正直な話し比較、評価した結果、製品内容にそれ程大差はありませんでした。

そこで今回の導入にあたって当社が重視した点は、①金額面、②サーバーの運用のしやすさ、

導入先企業データ

四電ビジネス株式会社

四電ビジネス株式会社

設立：昭和36年12月1日
資本金：払込資本金 3億円
売上高：316億円（平成17年度）
代表取締役社長：渡邊 宏
株主：四国電力株式会社
従業員：541名（平成18年3月31日現在）
URL：<http://www.yon-b.co.jp/>

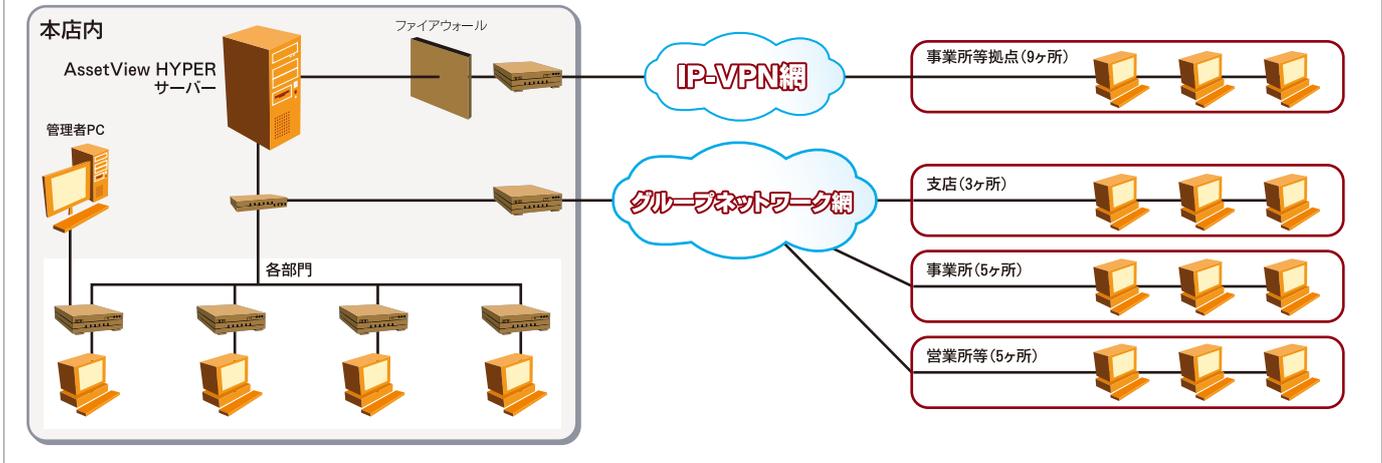
四電ビジネスは、いつもあなたと ベストなパートナーでありたいと願っています。

私たちは、お客様や社会のお役に立つことこそ経営の基本であると考えています。
いま、時代は、技術の革新や情報化の進展、うるおいや豊かさを追求する高まりの中で大きく変わりつつあります。
私たちは、このような時代の変化のニーズにお応えして、快適なオフィス環境の提供、高度な技術提供、生活アメニティの提供、ビジネスサポートなどあらゆるビジネスフィールドでお客様の立場で考え、本当に満足していただける付加価値のある高いサービスを創造し、提供してまいりたいと考えています。
これからも、地域の皆様とのつながりを大切に、信頼されるパートナーとして努力を重ねてまいります。



四電ビジネス株式会社 AssetView HYPHER導入拠点数 **23拠点** (630台)

構成：AssetView HYPHER A+D+Dplus+O+R+M+P+G



③機能選択が可能か、でした。

他社製品の場合、金額面で非常に高価で、複数のサーバーが必要であり、また機能が多く当社にとって必要のない機能が含まれておりました。

その点AssetView HYPHERは、

- ① 金額面で魅力があり
- ② サーバー数が1台ですみ、運用が容易
- ③ 必要な機能のみを選択導入が可能

でした。

つまり、当社要件を全て満たしたのは、唯一AssetView HYPHERだけだった訳です。」と小川氏は話す。2005年10月AssetView HYPHERの導入を決定、それから運用テストを経て2006年4月から14拠点630台のクライアントパソコンでの本番運用を開始した。今回導入したのは、資産管理(AssetView HYPHER A)、レポート機能(R)、セキュリティパッチ適用・ソフトウェア自動インストール(D)、セキュリティパッチ適用・ソフトウェア自動インストール(Dplus)、稼働監視・操作履歴、ファイルアクセス管理(M)、プリントログ管理(P)、デバイス使用制限(G)、リモートコントロール(O)であった。「導入作業を開始した2006年2月には、四国四県の拠点を手分けして土曜日、日曜日で14拠点630台のクライアントパソコン一台ずつにインストールして回りました。

また導入完了後に、「今まで動いていたアプリケーションが動かなくなった」とか「パソコンの稼

働が遅くなった」といったクレームが社員からあがることもありました。

しかしハンモックのサポートの方に協力頂き、解決することができ非常に助かりました。

今、思い出すといい思い出です。」と小川氏は回想している。

当初目標の達成と思わぬ効果

導入後、社内にアナウンスすると社員から「AssetView HYPHERをインストールしたらどうなるの?」とか「どういった情報がみられるの?」といった質問があり、返答すると社員から「これから休憩中にゲームをやっているのもわかるんか・・・?それは困るのう」といった少々困惑気味の声も聞かれました。

しかし社員のセキュリティに対する意識は確実に高まり、当初の目標であった情報漏洩防止、パソコンの稼働監視や操作履歴管理等は、達成できたと考えています。

但、デバイス制御の規制は業務運用上、全てを規制する訳にもいかず難しい面があります。全ての規制もできますが、そうすると運用面での負担が増えたり業務上非効率になるおそれがあるため慎重に検討しています。

また、AssetView HYPHERの副次的効果として、AssetView HYPHER Mの稼働監視・操作履歴データによる勤務管理があげられます。これは最

近の長時間労働による労働災害の事例を見ると、時間外勤務実績だけではなく、在社時間が実勤務時間とみなされ、会社の安全配慮義務違反が問われるケースが発生しています。

AssetView HYPHER Mにより在社時間を含めた適切な勤務管理ができるようになりいち早く対策を講じることができました。

と川上氏は話します。

今後の計画

「日本版SOX法(金融商品取引法)の成立を受け、より一層の内部統制の確立に向けて、AssetView HYPHERを活用していきたい。また今年の秋にリリースされる「AssetView GOLD」へも移行したいと考えています。」とのコメントを頂いた。

ハンモックでは、2006年11月にAssetView HYPHERのノウハウを継承、更に新機能を追加した「AssetView GOLD」をリリースした。

AssetView GOLDは、クライアントパソコンまわりを統制できる次世代IT統合管理ツールとして、情報漏洩対策や内部統制の確立を強力に支援する。